

タウンミーティング(2023.5.20開催 場所:市民ホールつくばね) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
1	つくばスーパーサイエンスシティってこともあって、いろいろITの活用とかあると思うんですけど、つくば駅周辺、先ほど紹介もあったと思うんですけど、結構いろんなロボットとかって印象を受けていて、あれって対象とする人とか世帯とかってもちろん幅広いくると思うんですけど、いざ利用したいってなったとき、先ほど皆さんまだ健康だからどんどんできるとおっしゃってたと思うんですけど、多分、主に必要だって考えた時に、どこかしら不便があったりする方とかだと思うんです。ペDESTリアンデッキ、つくば駅周辺の大学も通ってる歩道だったらすごい移動しやすいなんて思うんですけど、例えばこのロボットをこの辺りの北条のあたりまで活用しようとなったときに、大通り沿いに出ればまだ歩道と車道をしっかりと区別された状態ですけど、ちょっと小道に入ったりして周りの民家が並んでるようなところだと、狭いって言うふうにまだ感じたところがどうしてもあると思っていて、そうなった時にこれをもしも実証しようってなったとしたら、どういう形で実装できるのかなと思いました。	このスーパーシティでは、筑波地区の小田地区がまさにモデルとなっていて、その中でどういう運行が一番可能でかつ現実的だろうかかなというのをこれからいろいろ考えていきたいので、今のところまだ小田でやってるのは、どちらかというと乗り合いのAIのタクシーで病院まで行くのはどうしたらいいだろうというようなことをやってるんですが、パーソナルモビリティについては、まだそこまでは、やってないんですよ。それがなぜいけないかという、道路交通法上で今のところまだ残念ながら、この辺でパーソナルモビリティがそもそも動ける環境が法的にもないので、そういう踏み込んだ話まで出てないというのが実際のところですね。これからもう少し規制が緩和されたら、実際に小田の中でどういうふうに動かしていくことが地域の人にとって一番いいんでしょうねなんていうことを、相談をしているところです。 まちのレベルでやってるのはもう一つ、荃崎地区では、ある程度広い道を選んで自動運転のコースで、自宅から真ん中にあるバス停まで行くようなのをグルグル回すようなことはやっていて、そっちは大丈夫かなと感じてますが、やっぱり道の作りが団地と筑波エリアでは全然違いますので、そこで安全な運行がどうできるだろうかというの、結構大きな課題だと思っています。だから、こういうエリアにこういうモビリティが本当に一番いいのか、それともやっぱり乗り合いタクシーの方がいいのかとかって言うことは、場所によっても全然違ってくるので、そういう実証をいろんなパターンを試していくって言うことが、今回のモデル事業としての取り組みですので、そういうことをしっかりやっていきたいと思っています。
2	去年のこの会(タウンミーティング)で、画一的な対応ではなく、その地域の実情に合わせた柔軟な道路行政ということでお願いしまして、早速に対応いただきました。ありがとうございました。 しかし、当地区にはまだまだ未整備のところがございます、中には法面が崩れて、軽自動車の通行も安全にできないというようなところもございます。自力でそれなりに直したりして、自助努力はそれなりに果たしているつもりなんです、なかなか対応していただけないというような実情がございます。スーパーサイエンスシティ等々、それはそれで素晴らしいと思うんですが、やっぱり道路というのはインフラの基本だと思うんですよね。山沿いの地区の住民のこともどうかお忘れないうお願いいたします。	一時も忘れたことはありませんので、ご安心ください。法面のお話等も伺っておりまして何度か担当ともご相談していると把握しております。地元住民の方でも、別な形のご意見がある方もいらっしゃる、その辺りを地域としてまとめていただければもちろんやっていくことはできますので、これからも対話を続けながら進めていきます。そこに住んでる皆さんにとっても、それが感じられるようにするということは大事なことだと思いますので、しっかりやっていきます。

タウンミーティング(2023.5.20開催 場所:市民ホールつくばね) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
3	ここ30年、つくば市でいろいろスーパーシティ構想も含めて、いろいろ取り組まれてるんですけども、ただ一つ、景観というところで、こんなところがあったっていうのを、結構東京の方に住んでいる人間は知らなくて、いいところじゃないっていうんですけど。田園と旧日本家屋が珍しいと思うんですけど、その辺でそういったものを保全するといえますか、何かそういう景観条例的なものを作っていくないと、田園地区でだんだん混在してくるんですね、新しい家と古い家とあると思うんですが、その辺をどう考えているかお聞きしたいです。	景観は景観審議会というものがあまして、もちろん条例ガイドライン様々ありますが、おっしゃるように、例えば観光地というか、京都をとっても、鎌倉に行っても、看板のような色彩が薄まって統一されてるとか、町並みをこういう基準で作らなくちゃいけないというような、踏み込んだものまでは、まだつくば市はないです。私も結構景観原理主義者みたいなもので、例えば市の真ん中の方は、とりあえず、まちとして見苦しい看板は徹底的に、全部ルール違反のものはよけていくとか、それから自然の面でいうと、街路樹についても、つくばの景観を形成してる非常に大きなものだと思ってます。実はほぼすべて切るということだった計画を、私が就任して、実際現地歩いて、工事業者さんに発注してるんですが、ごめんなさいと、残すこととしたんですけども、そういうふうにはまちの景観を形づくっているものをできるだけ大事にしようと思ってます。 ただ、今お話のあった、いわゆる田園的な景観の維持という面で言うと、これはかなり広く網をどうかけられるかみたいなのがありまして、まず、さっき言ったように、具体的にこう強い規制をかけるところまではやっていないです。一方で、都市計画の文脈ではもちろん、建てられるものはある程度決まっていますが、これも随分前に作られたものが何となくアップデートされながら踏襲されているだけなので、今、都市計画マスタープランを見直しているところなんです。今の都市計画マスタープランでも、どこどこ地区の伝統的な町並みみたいなこと書いてあるんですよ。書いてあるんですけど、具体的にどういうことを言ってるのと言うと、職員も、具体的にわけじゃないんですけどねみたいな話になっちゃったりして、それじゃよくないと。守るべきものはちゃんと制度上で守れるようにして、もし規制が必要であれば、その規制をかけるようにすると。ただ、全体としてこのいい景観を守りたいよねっていうことは、まあまあハードルが高いことがあると思うので、それは行政だけではなくて、地域の皆さんも、ここはこういうものができないようにしようとか、ここはこういうふうに統一感を出していこうっていうことを一緒に考えていく必要があるかなと思っています。だから、ちょうど来週ぐらいから景観審議会に私もまた出ますので、今いただいたご意見は、こんなご意見もありましたけど皆さんいかがでしょうか、なんていう問題の投げかけはしていきたいと思います。

タウンミーティング(2023.5.20開催 場所:市民ホールつくばね) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
4	このあたり、ソーラーパネルもどんどん建ってきている。この話は個人の考え方もあるんですけど、ここまでソーラーパネルができたのかという、ちょっと驚きの点などもあるところもあって、それはいろいろな議論もあると思いますが、また、審議会の方で議論していただければと思います。	市議会でも、やっぱり大規模なパネルは問題になっていますし、あわせて今、つくば市はガイドラインで止まっているので、ソーラーパネルについても条例を検討化すべきというご意見をたくさんいただいています。実際はそれは検討していて、どういう形で基準を作っていくかというのはやっていて、もちろん今お話あったように私有地ですので、そこに対して権利制限っていうのは、まあまあハードルがあります。ただ、条例作ってる自治体もありますので、そういう事例をきちんと見ながら、適切な歯止めをかけなくちゃいけないと思っています。
5	周辺市街地に筑波地区での小田と北条が入ってますよね。小田地区の周辺市街地を解除してもらような方法ありませんかね。市街地じゃなくしてもらいたい。理由は、他の周辺市街地から比べると、行政サービスが非常に劣るんじゃないかなって感じなんです。今後期待はできないんじゃないかなと思うんです。そうすることによって、市街地を要するに調整区域にいただければ、現在の負担しています固定資産税、これが小田地区の場合には、大ざっぱに言ったら60町ですよね、そのうち小田城、道路、公共用地除くと約30町分ぐらいが市街化区域になっているんじゃないかなっていうふうな感じです。ですからそういうものを現在の時価、或いは市の方の評価によってちょっと大きな隔たりがあります。ですからそういうものを一般と同じような方法で解除していただければ、地元の住民の固定資産税の負担が、経済負担してる金額より、もう大きく見て5分の1、下がれば3分の1にはなるんじゃないかなという考えてるんですが。 それともう1点。ちょっと筑波地区の人口がどんどん減ってますよね。今、昭和の終わり2万2、3,000だと思ったんですが、現在は1万4000人ですよね。ですからこういうものを何か歯止めするような方法があったら教えてもらいたい。	市街化の解除というのは、なかなかハードル高いことでして、市街化だからこそ今までいろいろなインフラ整備も含めて、投資をしてきているし、建物をつくる際いろいろなものが成り立っているわけですね。ですので、それが全部でき上がった後に解除となると、行政の前提となる法秩序とか税体系とかを結構混乱させてしまうことがありますので、簡単に言うと、整備した後に税金がぐっと安くなるっていうことは、他の地区からするとやっぱり公平感としては、ちょっと受入れられるものではないかなと思いますので、今のおそらくご指摘の問題点は、行政として、もう少し積極的に投資をしたり改善すべき点があるということなのかなと思いますので、それは先ほどの小田小、例えば小田の協議会では小田小学校の跡地を地域で使うものに対して行政としてかなり修繕費を入れたりしていますので、ちょっとそういう部分で見ていただかないかなあというので、今の市街化を調整にするというのは、相当ハードルの高い話だなと思ってちょっと感じておりました。 人口減少にどう歯止めをかけるかというのは、これは非常に大きなテーマでして、非常に大きなテーマだからこそ、今都市計画に密接に関わってくるので、つくば市の都市計画マスタープランというものを見直している時期なんですね。今までの延長じゃなくて、徹底的にどういうものがあれば、人は残り続けることができるのか、住み続けることができるのかという視点で、私も担当者も、都市計画の担当者だけでなく、産業や交通の担当者も含め、みんなで地図を見ながら議論をしているところなんですね。 人口減少するにはいくつか理由があって、一つには仕事がないと。それから、教育環境がないということですね。仕事があれば若い人が残って、そこで仕事をして、じゃあ教育環境が必要だよということになっていくと思うんですが、子育て環境だけを整備しても、若い人は仕事がなければやっぱり仕事の近い場所にいつてしまします。その両方をきちんと作っていくことが必要なんですね。その際に核となるのは、小田であったり、北条とい

タウンミーティング(2023.5.20開催 場所:市民ホールつくばね) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
		う既存の市街地だと私は思ってるんですね。その既存の市街地の周辺にどういう仕事を作っていくかということ、かなり意識をして、核となるエリアからどう発展させていくかということが、本当にこれから必要だろうと思って、それを都市計画マスタープランの中でいろいろ議論しています。 もちろんそのエリアの中だけでなくちゃいけなわけじゃないんですけども、例えば旧筑波地区、今、鈴木県議もいろんなご尽力をしてくださっていて、仕事をどう生み出すかなんていうことも、構想をさせていただいてますけれども、観光はもちろん、地域のお店をどうしていくか、それから、一般の人が働きやすい工場等をどういう形で考え、そういうことをかなりトータルにやっていくことが必要だと思いますが、そのためにも、やっぱり私はある程度投資を選んで、エリアごとにしていく必要があると思っています。
6	私は眼科医として働いてるんですけど、結構40歳になると20人に1人が緑内障と言われていて、白内障は手術しちゃえば治っちゃうんですけど、緑内障って本当にひどくなってから患者さんが気付いて、来たときにはもう結構遅いんですよ。治療法も目薬を使用する感じなんです。つい最近も、医学生とかですと、授業にもあるので、20代の医学生が授業で眼底カメラ撮って、たまたま気づいたって人もいたんですけど、大体40歳前後に出てくるんですが、健康診断とかドックでも眼底カメラはオプションとかになってます。正直、採血とか毎年やるよりも、眼底カメラでも結構糖尿の状態もわかるし、神経緑内障とか高血圧とか出てくるんで、(市長は)いろんな方と会う機会の多い方ですので、眼科健診を広めていただけたらと思います。 いろんな場で語っていただく機会があると、もうちょっと眼科に足を運んでもらえるかなと。いろんな方々に周知していただけるとありがたい。	ちょっとどんな周知方法があるか考えてみます。時々歯科医師の先生たち、歯科医師会などからはご要望で、市報載せたりしてるんですけど、眼科の先生方は医師会という文脈で正しいですかね、眼科医会ってあんまり聞いたことないですけど。つくば市であります？眼科医の先生方の会とか。(発言者:ないと思う。)なるほど。健康増進課に今の話は共有して、どういう周知があるとか、私もすいませんまだ今のところは、一応老眼ぎりぎりセーフだったりして緑内障も大丈夫そうですが、時間の問題な気がしますので、ちょっと当事者意識をもってみたいと思います。

タウンミーティング(2023.5.20開催 場所:市民ホールつくばね) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
7	つくばが発展した中でTXの運用はすごく大きいと思うんですけど、TXっていうのは延伸の話が出てと思うんですが、市長はつくばTX沿線をどちらの方向に持って行きたいっていうか、そういう個人的な考えをお聞かせいただければと思います。	●市長 つくばエクスプレスですが、どちらの方向に言われると、私の今のオフィシャルな答えとしては、東京方面っていうのが市の公式見解でして、これはもうそちらの方向性で伸ばすことが決まっていますので、どう具体的に都内の路線とつないでいくかということが課題で、沿線都市としても合意をしているところではあります。おそらく今のご質問は、最近話題になっている県内4ルートの話だと思いますが、それについては、まだ県で正式に方面が決定しているわけではありませんので、私は注視をしているというのが、公式見解です。 例えばですね、筑波山方面は伸びたらすてきだなと思っています。伸びたらすてきなんですけれども、ただそれはやっぱり費用がかかるわけですので、一応市でも、以前簡単な試算をしてるんですね。つくば駅から筑波山までTXを伸ばしたら、いくらぐらいかかって何人ぐらい乗れば黒字になるか試算ですね。なぜそういうことを言ってるかというと、新しく鉄道を作るためには、国の審議会で、30年から35年で黒字にしなくては認可がそもそも下りないんです。認めてもらえない。今のつくば駅から筑波山まで、バスで毎日4,000人来ているんですね。これが鉄道ができることによって、何人になれば30年で黒字ができるかっていう計算を以前してるんですね。計算をしたら、今1日で4,000人が、1日に12万人にならないと赤字だということで出まして、これなかなかしんどいんですね。ちょっと不可能な数字ですけども、そういうことを考えると、筑波山ルートはなかなか国が認可をしないだろうなと思っています。その費用と利便性の分析をした数字で、今回土浦方面が費用対効果が一番高いということで選ばれましたが、それでも本来100点なくちゃいけないところが60点なので、あと40点は何とかして費用を、費用というか便益の方を上げていかないといけないという問題なので、これから県としてどういうふうな形でそれを実現させていくかというのは、正直、県がどういう見解を出されるのかわからないので、私ももうちょっと見極めないといけないなと思いますが、ここはおそらく鈴木県議いらっしゃると思いますので、もし何かあればいかがでしょうか。 ●鈴木県議会議員 市長がおっしゃったことがベースであることは確かです。ただ、今、第三者委員会の方で、先ほどB/C0.6とか、筑波山は0.2ぐらいだったかなと思うんですが、この第三者委員会の試算をされた内容は少しまだちょっと不十分な点も確かにありまして、沿線開発だとか、これから増えるべきこの人口増というものをきちんと見極めてない部分も確かにあって、その辺は私は県の方の担当に、第三者委員会の意見は重く受けとめるべきであるけ

タウンミーティング(2023.5.20開催 場所:市民ホールつくばね) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
		れども、それをただ鵜呑みにしてそのまま決めるんでは、県の役割っていうのは完全に果たしてないとは申し上げておりますので、そこも含めて今の5月1日から5月いっぱい、パブリックコメントというものも行っていて、県民の皆さんがいろいろご意見をお寄せしていただいています。これもちょっとPR不足でその存在すら知らない方もたくさんいると思うんですが、そういった思いもいろいろお聞かせいただきたいというふうに思っています。 で、最終的に、まずは県として一つの方向性を出します。おそらく土浦になってしまうのかもしれませんが、そこから先ほど言った0.6からどう上げていくのかっていうことと、そもそも沿線自治体の東京とか、他の自治体の理解とか、もう一番、一元的には首都圏新都市鉄道が事業者としてそこに乗り出せることができるのかってこととか、いろんなハードルがあります。 なので、今やっていくことは、県民の皆さんにはいろいろな思いをどんどんお寄せいただくことで、県の考え方をもう少ししっかりとブラッシュアップしていくってことを促していただくことと、私も議員としてそれは当然今もやっておりますし、その上で公共交通全体の流れを考えるということを機会に上がっていくと思いますので、それは県がやること市がやること、民間事業者がやること、それを行政としてどうやってバックアップできるのかっていうことをしっかり考える機会として、まずは県の事業としては今回絞り込んで、絞り込んだ上でそれを実現するためにどういう効率的なルートがあるのかっていうことを、今年度の事業でやってくということになっていますので、ぜひご意見を寄せていただきたいというふうに思っています。 ●市長 我々も県の最終的な方向性が出たら、当然調査を始めようと思っています。どういことが今後起きてくるとか、費用とか、まだそういう意味でわからないことが多いので、そういうものを県の情報を注視しながら進めていきたいと思っています。

タウンミーティング(2023.5.20開催 場所:市民ホールつくばね) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
8	先ほど景観の話が出たんですが、耕作放棄地が多くてもったいないなっていうか、なんでこんなに荒れてるのかなっていつも悲しく思うんですね。そういう現状を市長はご存知なんですか。もしご存知であれば、どのようにしていきたいのかっていうのを教えていただければと思います。	耕作放棄地は、多いことは把握してます。私が今から10年ちょっと前に、障害者が働く農場を立ち上げたんですね。今大体5町歩ぐらいで、市長になってからは経営は離れてるんですけども、多くの障害者スタッフが働いていて、そうすると、うちのところも使ってくれと、うちもう使えないんでやってくれっていう話をたくさん当時いただきました。これは本当に大きな課題だと思っています。農業をなぜやらないかという、極めてシンプルで、儲からないからなんですよ。農業を今やってる方が自分の子どもに継がせたいと思えるほどの収入がないので、みんな辞めていくしかない。大規模に、経営手腕を持って、80町歩ぐらい米とかやってるとか、それぐらいの規模になると、十分農業としての生産が採算が立ちますけども、そういうふうな規模にならないとなかなか厳しい。じゃあ、すべての農業がそんなに大規模にできるかという、それもまたちょっと違うので、市としては何がまずできるだろうというふうに考えたのが、せっかくすばらしい農産物を地元の皆さん作ってくださってるので、それをもっと市内で食べられるようにしようということはやっていて、地産地消レストラン認定制度というのを、今から3年ほど前にやったんですね。それは、つくば市産の農産物等を使っているメニューを出してくれる市内のレストランを募集して、今150店舗ぐらいのところが登録してます。ただ残念ながら、その制度の登録を始めた瞬間にコロナが来て、我々も一切宣伝というのができなかったんですね。でも、そういう場所で、地域の皆さんが、つくば産のメニューこんなにおいしいっていうのを知っていただくと、例えばスーパーなんかでもっとじゃあ地元産を買ってみようかなとか。こんなにおいしいんだったら、もっといろんな場所に直接買いに行ってみようかな、そういう流れを作っていって、農家の皆さんの状況を少しでも改善をしていくということが、まず、既存の農業者に対しての一手ですね。 もう一つは、つくば市もそうは言いながらも新規参入の人たちが出てきてくれています。ブルーベリーを新規参入で学んだり、JAに入ってネギを学んでみたりして、結構これがうまくやると、しっかりと収入を取ってる人たちがいらっしゃいます。ただやっぱり農業も誰もができるわけじゃなくて、補助金もらえるからやるみたいに新規参入しようとする、うまくいかないです。自分で会社経営と同じように、農業経営をしていくというような具体的な計画がある新規参入部分はみんな結構上手くなってるので、それはただ農業やるだけじゃなくて、例えば一緒に、ちょっとしたピザレストランをやってみて、それを収入の足しにしたりなんていう工夫をしたり、そういうことの資料は農業者ネットワークで新しく参入した人とか、既存の人たちがうまく繋がっていくグループを作って、お互いにアドバイスしたり、お互いにサポートをしたりなんていう枠組みを作っています。ただ、根源的に

タウンミーティング(2023.5.20開催 場所:市民ホールつくばね) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
		はそういうこともやりながら、どういう方向に農業を持っていくなだっている国の大きな方針がちょっとまだわかりませんが、市としては一番は、消費をしてくれる人たちに対して、つくばで生産者の皆さんが作ってる素晴らしいものをつなげていくという、そのプラットフォームを作ることという、一番の仕事かなと思っています。ただそれだけじゃ本当にカバーしれるかという正直心もとないところですが、鋭意努力していきます。
9	耕作放棄地って個人所有の小さな畑で、そこが道路も狭くて、大型車も入ってないような状況なんで、農業の方が新規に入るかっていったらちょっと難しい立地条件なんですね。逆にそういうところを、つくば市なんかで一括で借り上げていただいて、つくば市で例えばソーラー発電みたいなものを作っていただいて、売り上げの8割がつくば市で2割か地権者みたいなそんな形の活用方法ってのはできないんですかね。ソーラーじゃなくてもいいんですけど。	農地を使ってソーラーをやるっていうのは、今、営農発電というソーラーシェアリングでありますけれども、これも様々な形で議論になっていて、この間も国会議員の先生方が現地に来て私もお話をしたりしたんですが、ソーラーではないと思いますが、例えば市が農地を借り上げて、市民農園をやるなんていうケースは、他の自治体でやってるところもありますし、その事業をやるのも民間でやってもらうことになりますが、そういう形でできるだけ活用してるのはありますけど、今お話やっぱあった中で一番難しいという小規模な農地ですよね。私も農場立ち上げたときに、借りたくても、貸したいって人はたくさんいるんですけど、いきなりそこで、2反とか3反とかだけ借りても、生育しないわけですよ。ですので、ある程度まとまった農地じゃないと厳しい。点在してる農地をどう活用していくかっていうのは、ちょっと考えないといけないと思っています。優良農地はしっかり、景観としても、まさにこのエリアでの優良農地がたくさんあって筑波山の景観も含めて本当に素晴らしいと思うんですけど、そうじゃない本当に皆さん困って畑をやれるわけでもない小さな農地を本当にそのまま農地として維持していくのが一番いいことなのかどうかっていうのは、都市計画の中で、もうちょっと考えなきゃいけない時期が来てると思います。 私よく言ってるのは、この優良農地と、どうにもならなくて放棄してる農地が、今、農地法では基本的には同じ括りで、何もできないんですね。特に農振地区指定されてる農地っていうのは、もう手も足も出ないに近い状態なんですけれども、そこを枝分けしてしっかり守るべき優良農地とか景観含めというエリアと、もう少し開発かけてもいいんじゃないのっていうところと、整理を少ししていく必要があると思っています。

タウンミーティング(2023.5.20開催 場所:市民ホールつくばね) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
10	下妻市に入ると、運送会社だとか新しく企業が来て、そこに働く方がいっぱい車が停まってて、すごく活気があるんです。そういう意味で企業誘致というか、働く場所を増やすとか、そういうお考えはあるんでしょうか。 いいところは(他市を)真似して、用地の問題は市長の力で打破することはできないんですか。	●市長 人口を増やすためには働く場所が基本ですが、なぜ誘致ができていないかということ、用地がないからなんですね。土地がないから。土地あるじゃないと思うでしょうが、ある図をお見せしたいくらいなんですけど、つくば都市計画で、農業の地区・農振地区っていうのをマッピングした図なんですけど。ものすごいそれによってカバーされてるんですよ。そこには一切工場を作ったりできないんですね。そこを減らすんだったら他の土地を市内で用意しなさいよというんですが、無理な状況なんですね。これは農振と言っても、相続がすごく複雑になっていて、もう使えないような状況とかのともありますので、それって誰が得しているのか、おかしいじゃないかって話をしているんですが。優良農地は私は残したいんですけども、使えてない用地だったら、そこは開発させてもらって。例えば、よく私も他市長とかと相談して、そっちの農地でうちの農地分賄ってくださいませんかみたいな話をしたいんですけど、今は自治体の中で決まりがあるんです。そんなの意味ないですよ。じゃあ合併したらいいのかって話ですから。だからそういうことも含めて、開発をかけたいと思っていますが、作れないんです用地がなくて。 そうは言っても案内はしているので、今遊んでる用地はかなり減っています。積極的に都市計画をできるだけ柔軟に解釈して、事業化できるように仕向けていますが、農地法の縛りがめちゃくちゃ強い中で、残念ながら昭和48年に調整区域と市街化区域の線引きがされたんですが、その線引きも当時県が、大体で、何かあんまりちゃんと根拠があるというわけではない。そういうことを踏まえると、都市計画の全体的な見直しが必要だと。開発をかけるエリアと守るエリアが今は簡単に言うと虫食いなんです。そうすると、仕事の場所を作ろうとしてもそういうことができない。 線引きしてない自治体っていうのはそういうことが違うんですけど、下妻は多分そうですね。(発言者:なんでつくば市はあるんですか。)それは昭和48年の市街化区域を作るということで、県と一緒に進めております。その時にちょっとどういう経緯で、(下妻が)それがされてないのかちょっと。 逆に調整区域を市街化に編入するというのは、相当ハードルが高いですけども、県が認めてくれればできます。それは全体としての市街化の面積とかを見てはいるんですけど、そうはいってもつくばがこれだけ人口伸びてますので、調整区域を市街化に編入する交渉というのは、場所によっては必要かなと思っていますが、都市計画部門が言うには絶対無理ですと、以前県に相談したんですけど、もう門前払いというような、ただそれ随分前で、鈴木県議がいる前だと思いますから、今また話が違つかもしれませんけども、そういうことはちょっと考えなきゃいけないと思っています。

タウンミーティング(2023.5.20開催 場所:市民ホールつくばね) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
		ですので、何か調整区域だから景観が守れるじゃないんですね。調整だから開発をかけられないから荒れてしまってるところ。その線引によって、我々ができることが制限されてしまってるのはおかしくて、市としては守るものをしっかり守りながら、守るためにも開発をかけたいと思ってるんですね。そこで仕事を満たせば、そこで地域が持続可能になっていくということになりますので、そういうことをやる自由と裁量が欲しいと常に思っています。実は今、令和臨調という民間有志団体、市長会を作ってるんですが、そこでもそんな議論をしていて、そういうことも国に対して、その令和臨調を通じてぶつけていこうと思います。 ●鈴木県議会議員 農地法の第3条が、取得面積の下限が廃止されたっていうことは一つの捉え方によってはいいことだと思っていて、今まで5反歩という意識があったところもあって、なかなか参入できなかったけども、例えば1反歩を購入してそこに農家住宅を、市街化調整区域でも理論上は建てられるようになりますよね。そういったことを適正に行っていくことと、また農地の活用ということであれば基盤整備も、面積と、あとはその要件の緩和と、非常になされてきたので、今、今回小和田地区で新たな基盤整備事業がスタートしますけれども、その面積も、例えば飛び地であってのもってということもあるので、先ほどの例えば耕作放棄地等も全体の中の比較ととらえて、その基盤整備に転用してそこも活用できるようにするということもできたり、そういったことをやっぱり地元の基礎自治体で今、市長連合等も作っていただいてそういう意見をいただくことも併せて、農地法も現状に合わせて変わりつつあるということなので、やっぱり粘り強くやっていくためには、こういったタウンミーティングでのご意見というのは非常に貴重だと思ってますので、コメントとして申し上げたいと思います。 ●市長 鈴木県議がおっしゃったことがすごく大事なことで、例えば私も何か事業をしたり、市役所に指示出す際も、タウンミーティングでこういうご意見があったよっていうのはすごく大きな根拠ですよ。それはやっぱりこうやって直接お話をして、皆さんの生の温度感を感じると。オンラインもいいですけど、やっぱりそれではちょっと読み切れない空気感みたいなものが、タウンミーティングでは皆さんから感じられるので、非常にありがたいですし、今日いただいたご意見もちゃんとすべて記録をしてくれていますので、それを踏まえて次につなげていきたいと思ってますので、地元の議員含めていろいろご指導いただきたいと思います。

タウンミーティング(2023.5.20開催 場所:市民ホールつくばね) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
11	東中学校の筑波山地域ジオパーク拠点、BMXコースの整備について、市長にいろいろ音頭を取っていただきまして大変ありがとうございます。地味な施設かもしれませんが、だんだんと波及効果が出てきて、旧筑波地区全体に非常にいい影響を及ぼすのかなというふうに思っております。そこで一つお願いがあるんですけど、筑波東中学校の正門にかかる道路が、新町地区の子どもの通学路になっているんですね。ジオパークなり、自転車拠点施設ということになると、かなり交通量も増えますし、子どもたちの通学の安全という問題も関わってきますので、現時点ではなかなかちょっと狭いかなと思うんですね。もうちょっと広げて欲しいということで、神谷議員、鈴木県会議員にもいろいろと打開策についてお願いしてありますので、その辺ぜひよろしくお願いしたいと思います。	●市長 よくお話を伺っておりまして、どういう形が一番いいかというのを、今、神谷議員たちとも相談をしているところですので、確かに今のままではいろいろ狭いですし、不便にもなってしまうし、例えば大会なんかやった際には、あのまま行くとまあまあしんどい状況になると思っていますので、よく相談をしながら、どういう工事ができるかをやっていきたいと思っています。実際、例えばBMXコースは全日本選手権ができるクラスのコースということになってますので、そういうことの誘致をするにしても、道路が狭くてはなんだここはってなっちゃいますから、これはよくご相談しながら進めていきたいと思っています。鈴木県議何かありますか。 ●鈴木県議会議員 いろいろアドバイスいただきました北条の駅舎跡地に関しても、今非常に荒れ果ててしまっていて、今回旧筑波駅、筑波山口のリニューアルをしますけれども、合わせて連携が必要で、北条の駅もそうですし、りんりんロード全体で言うと、元岩瀬駅なんか非常に残念な状況にあって、実は昨日スポーツ推進課と一緒に協議をしたんですけども、やっぱり地元自治体と連携して、民間と連携して、全体を高めていかないと、せっかくシェアサイクルルートに選定をされて、日本一の自転車道だっているというふうに言い張ってはいるけれども、名実ともに評価も含めてなるようにということで、北条の駅舎に関しては少し前向きに進んでいくというふうに思ってますので、市の道路計画と合わせて進めていきたいというふうに思ってます。